

令和3年度「全国家庭教育支援協議会」・「全国公民館研究フォーラム」合同大会

パネルディスカッション 議事録

(日時)

令和4年2月4日(金曜日) 13:15～14:30

(テーマ)

地域全体で進める家庭教育支援

(登壇者)

【コーディネーター】

松田 恵示 氏(東京学芸大学 理事・副学長)

【コメンテーター】

村井 美樹 氏(社会教育士応援大使、俳優・タレント)

【パネリスト】

<今別町(青森県)>

大馬 義明 氏(今別町教育委員会 教育課 主査)

工藤 清子 氏(今別町教育委員会 教育課 家庭教育支援コーディネーター)

<西会津町(福島県)>

紫藤 真理子氏(西会津町教育委員会 学校教育課 家庭教育コーディネーター・教育相談員)

<泉大津市(大阪府)>

長谷川 慶泰氏(泉大津市教育委員会事務局 教育部指導課 課長補佐)

(議事録)

【松田】 それでは、改めまして、全国の皆さん、こんにちは。これからパネルディスカッションに移っていききたいと思います。進行させていただきます東京学芸大学の松田と申します。よろしくお願いいたします。

先ほど来、中西全国公民館連合会会長あるいは小林家庭教育支援室長から、この会の趣旨並びに家庭教育を取り巻いております基本的な状況や課題についてお話があったかと思えます。

本当にコロナの状況が厳しい中であって、特に家庭の孤立あるいはつながりのなさが逆に浮かび上がるような中で、いかに子供たちを育てていくかが大きな課題になると改めて感じるような状況ではないかと思えます。しかしながら、家庭教育支援は本当に力を入れ

でずっと積み重ねて取り組んでくださっていることでもあり、その意味では、こんな状況だからこそこれまでの財産が非常に活用され、また新たな取組に向かつての一つのチャンスになっているのではないかと思います。

いろいろなことを含めまして、今回は特に家庭教育支援を中心的に担っていらっしゃる方々と共に、同じような思いを持って子供を支えようとされている他の関係諸機関との連携体制や取組の実際を考えながら、こういういろいろな組織が子供を取り巻いて、みんなで家庭教育を支えていくという支援の方策や連携・協働の促進について考えていきたいと思っております。

そのために三つの地区から本日はまず報告をいただいて、その中で、もちろん今御参加くださっている皆様方からの御質問や御意見もいただきながら、先ほども御紹介がありました村井大使に本日こちらに来ていただいておりますので、御一緒に皆さんとお話をしつつ考えていくことができればなと思っております。

会を始めるに当たりまして、特にZoomで御参加のオンライン上の皆様方に御紹介がございます。もうお使いになられている方は御存じだと思うのですが、チャットという機能がございます。このチャットは、お話を画面の方がされている最中でも打ち込むことができますので、お感じになられたこと、あるいは御質問されたいことがありましたら、その都度その都度、どんどん打っていただけましたら、それを受けて、後ほどのお話合いの中で取り上げさせていただき、その意味で御一緒に常に考えていくことができるのではないかと思いますので、ぜひぜひ御活用いただければと思います。

それでは早速ですけれども、まず、いろんな形で地域の資源を生かして取り組んでいらっしゃる実践の御報告をいただきたいと思っております。

では、まず青森県の今別町のお取組の御報告をいただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

【今別町（大馬）】 改めまして、青森県今別町教育委員会の大馬と申します。本日はよろしく願いいたします。ちょうど今、画面上には見えないのですが、隣にいる工藤と一緒に、公民館における家庭教育支援事業について発表させていただきます。

【今別町（工藤）】 皆様、こんにちは。今別町家庭教育支援コーディネーターの工藤清子と申します。今日はこのような形で素晴らしい機会をいただき、皆様とお会いできたことを心から感謝しています。

私は20年以上前に夫の転勤で今別町に移り住みました。そのとき地域の人からたくさん

温かい声をかけていただき、励まされて、この町が大好きになりました。そしてこの町で暮らしていくことの喜びが、家庭教育支援に関わることになった原点です。笑顔と温かい声がけをモットーに、地域の人たちと共に、地元ならではの子育て応援活動を続けています。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【今別町（大馬）】 それでは、発表のほうに入らせていただきます。

まず初めに、私たちの青森県今別町の紹介をさせていただきます。

まず、今別町は津軽海峡に面した人口2,431人の小さな町です。青函トンネル入口の町であり、平成28年3月には北海道新幹線奥津軽いまべつ駅が開業しています。学校は小、中学校ともに1校ずつ、児童生徒数も32名ずつの合計64名と、非常に小規模な学校となっております。

次に、今別町の見どころです。景勝地として有名なのは、津軽国定公園にも指定されています高野崎です。天気の良い日には北海道と下北半島が一望できる最高のロケーションとなっておりますし、近くにはキャンプができる場所もあり、夏には多くの観光客が訪れます。今別町は海と山に囲まれた町となっております。山菜などもとても豊富ですし、自然に囲まれて育った「いまべつ牛」は非常においしいです。また、津軽海峡で養殖している津軽半島今別サーモンはASC認証という国際認証を取得しており、自然環境の汚染や資源の過剰利用の防止などに配慮しております。こちらも非常においしいですので、機会があれば当町にお越しください。

今別町のPRはここまでとさせていただきます、本題の家庭教育支援について説明させていただきます。

まず、当町の家庭教育支援事業を進める上で、大きな課題がありました。それは子育て世帯の孤立化です。一昔前は各町内会や子供会が非常に活発で、地域で子供を育てる体制ができていました。しかしながら少子高齢化や人口減少などの様々な要因があり、地域で子供を育てる体制が維持できなくなりました。住んでいる地区によっては、子育て世帯が一つしかないところもあり、孤立化が深刻化していきました。

当公民館では、この課題を少しでも解決するために三つのことを連携・協力しながら取り組んできました。一つ目が、子育て世帯のコミュニティ形成、「ほっとケーキサロン」の実施。二つ目が、「子育て講座」の開催。三つ目は、偶然も重なりましたが、家庭教育支援チームの設立。この三つになります。

それぞれの取組については、そのときに従事しておりました工藤のほうから詳しく説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

【今別町（工藤）】 では、私のほうから説明させていただきます。

まず初めに、一つ目の取組、「ほっとケーキサロン」についてです。この事業は、私がコーディネーターになって間もないときに、こども園の園長先生から広場型支援センターの相談を受けて、「ぜひ、ここ公民館でやりましょう」と言って、スタートしたものです。あったかくて、おいしくて、誰でも大好きなホットケーキにちなんで、「ほっとケーキサロン」とネーミングしました。こども園と家庭教育支援チーム、公民館が連携して、就学前の子供や子育てママさんなどを対象に実施しています。内容は、子供が自由に遊べる空間を提供しているほか、保護者には、学びや相談、リラクセスの場を提供するために、例えばリフレッシュヨガ、子育てワンポイント講座、親子で物作りなどを月1回程度実施しています。

次に、このページ（資料2-1 p.8）は各団体の役割を載せています。こども園は、保育教諭による企画立案・協力です。支援チームは、参加者への声かけと当日のスタッフです。行政からは公民館を無料で貸していただき、職員の方も様々な協力をしてくれます。保健師さんも毎回顔を出してくれます。特にほかの地域から転入してきた方など、参加者への声かけについては、直接御自宅に伺って、チラシを配付、お誘いしています。

次に、「子育て講座」です。この事業は小中学校と連携して行っています。小学校は、就学時健診の時間を活用します。保護者に子育てのヒントになるような講話や、心身ともにリラックスできるような講座を実施しています。また中学校においては、保護者が集まりやすい参観日などを活用して、思春期を健やかに過ごせるよう、「子育て講座」を実施しています。「オヤカガクプログラム」を使つての講座も大変有効で、依頼があります。

最後に、家庭教育支援チームの設立です。平成26年度、「絆でつながる家庭教育支援セミナー」が地元で開催されまして、保護者、スタッフ、こども園の保育士たちが参加しました。そのときの学びの成果は大変大きくて、今別町には親子で交流できる場、子供たちが活動できる場が少ないという現状を少しでも改善して、地域の役に立ちたいという熱い思いからつながり合いまして、平成27年にチーム結成しました。メンバーには、家庭教育支援コーディネーター、民生委員、こども園の保育士などが入っています。チーム名は、「家庭教育支援チームTAZUNA」と名付けました。この名前の由来は、写真（資料2-1 p.9）にもありますように、今別町の伝統芸能「荒馬」から取ったものです。馬役の男性と手綱取りの女性で構成されて、男女ペアになって華麗に踊ります。女性が手綱を取り、子育てを楽

しみながら地域の絆づくりをしようと、そう名付けました。

“チームTAZUNA”の主な活動です。一つ目は、公民館子ども教室です。この事業は、年5回、土曜日などの休日に行います。地元小学生を対象とした様々な体験教室を行っています。二つ目は、学校支援活動への参加です。朝の挨拶運動や、学校の草刈り、花植えなど様々な環境整備などにボランティアとして参加しています。最後に、先ほど説明いたしました「ほっとケーキサロン」への協力、家庭教育支援事業です。この三つの活動を主にを行っています。

次に、活動の成果です。一つ目は、「ほっとケーキサロン」を実施したことで、子育て世帯の孤立化を防ぎ、子育てママさんたちのネットワークを形成することができました。地域の人が顔を出してくれると、ママたちも大変喜んでいきます。二つ目は、地域人材の発掘です。サロン参加者の中には美容師さんやヨガのインストラクターなどの方がいらっしやいまして、講師として依頼することができました。若い人の力を引き出し、サロンの活性化につながりました。三つ目は、学びの場や相談の場をつくることができたことです。学びの場は「子育て講座」、相談の場は「ほっとケーキサロン」を通じて、保育士や家庭教育支援アドバイザーが対応しています。四つ目は、家庭教育支援チームができたことで活動に厚みが増し、事業に対して良い点、改善すべき点を導き出して、次に生かせる仕組みが出来上がったことです。

最後に、今後の課題です。多くの市町村が抱えている悩みだと思いますが、少子高齢化が一番の問題です。昨年度の今別町の出生は1名でした。私たちスタッフが一生懸命アイデアを出し合って声がけしても、参加者が10名に満たない状況ですが、私たちの活動は地域の人とつながり合い、地域の輪を広げていくことです。町外から移り住んだ方たちも安心して子育てできるコミュニティーの場をなくさないこと、そして若い世代の保護者やその子供たちが交流し合える大切な場を守り続けていくこと、それが今別町のために役立つことであると考えます。公民館としても、今ある活動を、希望を持って継続して、次の世代へバトンを渡せるよう支援を続けていきます。

以上で、今別町の発表を終わらせていただきます。御清聴ありがとうございました。

【松田】 はい、ありがとうございました。とてもあったかい空気感が伝わってくるような御報告で、本当にありがとうございます。

また、チャットのほうからもたくさん御質問いただいております。まず3事例の御報告をいただいた後に、御質問の御回答並びに議論をできればと思っておりますので、よろし

くお願いいたします。

特に公民館における家庭教育支援という観点で御報告いただきました。ありがとうございます。

それでは続きまして、学校との連携による家庭教育支援の観点から、西会津町にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【西会津町（紫藤）】 改めまして、皆さん、こんにちは。西会津町で家庭教育支援活動を担当しております紫藤真理子です。

本日は「こころのオアシス」の活動について紹介させていただきます。

西会津町は福島県の北西部、新潟県との境に位置する人口6,000人ほどの小さな町です。冬には多くの雪が降り、夏にはミネラル健康野菜、秋にはおいしいお米が収穫される自然豊かな町です。町の子供たちが通う教育施設は、過去20年の間に統合が進み、現在は幼、小、中学校が一つの地域にそれぞれ1校となっております。

そのような西会津町ですが、抱える問題があります。過疎化、少子高齢化、核家族の増加、地域社会の関係性が希薄、家庭の孤立化、ひとり親世帯の増加、困窮家庭の増加などです。

「こころのオアシス」は小学校に設置されています。昇降口を通らず、外から直接入室できます。「こころのオアシス」は地域のコミュニティースペースでもあり、保護者に限らず町民誰もが気軽に相談に訪れ、リラックスして相談できる場所として運営しています。

“オアシス”では、家庭教育コーディネーター兼学校教育相談員の私、紫藤と、家庭教育支援員の星が相談に当たっております。

“オアシス”の室内は、パーティションを利用し、四つのエリアに分かれています。相談者の秘密厳守を徹底することはもちろん、静かで落ち着いた雰囲気の中でお話ができるように心がけております。また、リラックスして相談ができるよう、おいしいお茶を出したり、お菓子を出したりして、おもてなしもしています。このような配慮は、母親が多く訪れる相談室にとってとても重要な心配りだと実感しています。

学校内に相談室があるメリットはたくさんあります。まず一つに、保護者や家族にとって親しみやすい場所となっております。子供の送迎等で学校に来た保護者が気軽に立ち寄りやすいということです。次に、保護者が担任の先生と相談したいと言った場合には、事前に面談のコーディネートをして、不安の解消をお手伝いいたします。保護者にとって“オアシス”は相談しやすい場所となっているのも確かです。

二つ目に、“オアシス”は、教室になじめなかつたり誰かに話を聞いてもらいたかつたりする児童生徒の心の居場所にもなっています。休み時間に来室し、リラックスして心を落ち着かせることでリフレッシュし、次の授業に向かっていくことができます。また、障害のある児童生徒のクールダウンの場所として利用され、学校と連携しています。

3点目は、毎日のように先生方と情報交換ができることで、最大のメリットです。来室する子供たちとの会話の中で子供の変化に気づき、担任の先生につなげることで、早期に課題を発見し、対応することができます。

このように、学校であって学校でない場所として“オアシス”は存在しています。

“オアシス”の利用者は年々増加しています。今年度は12月現在で1,598件の利用がありました。

実際に相談に応じ、問題解決につながった小学生と中学生の事例を紹介いたします。

初めに、小学校3年生で、毎朝登校渋りをして、母親が仕事に出られず困っているという事例です。担任、教頭先生、教務主任、養護教諭、スクールカウンセラー、教育相談員が、週に1度“オアシス”に集まり、カンファレンスを実施した結果、今では普通に登校できるようになっています。

次に、中学2年生の事例ですが、発達障害と精神疾患を抱え、決まった時間に登校ができないために母親が困っているという例です。母親、スクールソーシャルワーカー、担任、“オアシス”スタッフでの定期的な面談や情報交換を実施した結果、現在は安定した状態で“オアシス”から登校できるようになっております。

これは、「こころのオアシス」が連携している関係機関です。この中で子育て支援センターの保健師には、専門の医療機関の受診を勧めたほうが適切だと思うケースの場合は連絡を取り、一緒に相談、対応に当たっています。また、家庭教育コーディネーターの私、紫藤が小中学校の教育相談員も兼務しているため、学校の先生方やスクールカウンセラーと常に連携し、情報の共有、早期発見、早期対応に努めています。

その他の関係機関との連携ですが、まず学校とは、学校見学ツアーを実施しました。子供たちの保護者を対象に、入学前の不安解消を図るために実施したものです。

次に、学習機会の提供では、教育委員会との連携で、就学時健診の際に家庭教育講座を開催し、産婦人科医による性教育の講演やスクールカウンセラーによる講義なども実施しました。

また食育活動においては、小中学校の養護教諭や栄養教諭と定期的に食育会議を行い、

児童生徒の食や健康について情報共有し、家庭での子供たちの食生活の現状を確認し合い、指導に生かしております。

最後に、今後の展望については、第1点目に、親しみやすく信頼される相談室を目指して、相談者の複雑化した問題に対応できるようスキルアップし、私たちも研修を積み重ね、信頼される相談室にしていきたいと思っております。第2点目に、家族に寄り添った支援に努めていきたいと思っております。夫婦関係、嫁姑問題、子供の悩み、経済問題、介護問題と多岐にわたった相談に、“オアシス”のモットー、「じっくり聞いて、しっかりつなげる」を実践してまいります。第3点目に、保護者目線の学習機会の提供です。これまで企業訪問をして、仕事で参加できない保護者に向けて家庭教育を実施してまいりましたが、今後はそれにプラスをして、町のICT環境を活用し、忙しい保護者の皆さんの必要なところに必要な情報を届けてまいります。

私たちはこれからも、相談はじっくり聞いて、しっかりつなげ、情報は届けたいところに確実に届け、学校であって学校ではない「こころのオアシス」として、ますます親しまれる営業を続けてまいりたいと思っております。

御清聴ありがとうございました。

【松田】 はい、どうもありがとうございました。子供たちのほっとする姿が本当に目に浮かぶような御報告をいただいたと思っております。ありがとうございます。学校との連携ということを中心に御報告いただいたところです。

それでは続きまして、そのまま最後の御報告、福祉との連携による家庭教育支援の観点からということで、泉大津市からお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

あと、現在チャットでも大変たくさん御質問をいただいております。御報告いただきました今別町の皆さんや、今の西会津町の皆さんから、この質問に関して簡単にお答えできることでしたら、チャットの中でこの時間でも入れていただければと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、お待たせしました。泉大津市の皆さん、よろしくをお願いいたします。

【泉大津市（長谷川）】 皆さん、こんにちは。聞こえていますでしょうか。大阪府の泉大津市教育委員会の長谷川です。私からは、家庭教育支援を行う上で出てきた課題を解決するための手段を模索する中で、福祉との連携に行き着いた経緯と、その連携を行ったことによる変化について報告させていただきます。

まず、我々が住む泉大津市ですが、大阪府の中南部に位置し、人口74,000人弱の小さな

市で、もともと国産毛布を地場産業としてきたことから、「羊精おづみん」が市のゆるキャラです。泉穴師神社といった歴史的な建造物に加えて、昨年は駅前に新図書館シーブラが、海沿いの公園にバーベキューを楽しめるリゾート施設がオープンし、令和5年には市民会館跡地に大きな公園を計画しています。小さな地域の中で、人に来ていただくためにどんな工夫をすればいいかを考えています。

本市で家庭教育支援に取り組んだ背景ですが、まず一つ目は、慣れない土地での子育てや核家族化などによって子育てに悩みや不安を抱えながらも周りに相談できずに地域から孤立化している保護者の増加です。二つ目は、離婚や貧困などを背景に保護者が日々の生活に追われ、余裕を持って子育てに向き合えない点。三つ目は、コミュニケーション能力に課題があることなども背景に、保護者が学校との良好な関係をうまくつくることができない点です。このような「困った保護者」に映っている人が、本当は何らかの支援を求めている「困っている人」なのかもしれないという視点で見つめ直し、そんな保護者の困り感に少しでも寄り添いながら支援することを目指して、この家庭教育支援を進めてきました。

その目標に向けて、これまで小中学校に子供がいる保護者を対象に、家庭教育支援チームのサポーターが家庭訪問型と小学校配置型の二つで保護者に支援を届けてきました。まず、サポーターが保護者に寄り添いエンパワーメントすることで、子育てへの自信と余裕を取り戻すといった形で、保護者に気持ちの変化が生まれます。すると、保護者の子供への声かけや学校への態度といった行動にも変化が生まれて、それが子供の落ち着いた学校生活、登校渋りの改善といった変化にもつながった結果、学校、保護者、子供の三者の良好な関係ができた、そんな成功体験を一つ一つ重ねながら取組を行ってきました。

この家庭教育支援の充実をさらに図るために取り組んだ教育と福祉の連携ですが、これは家庭教育支援をやりながら感じてきた課題を考えたことがきっかけでした。まず一つ目は、就学前の子を持つ保護者にも課題を抱えている人がいるはずなのに、その保護者を見つげ出すすべを我々が持っていないこと。二つ目は、サポーターをなかなか保護者にうまくつなげないという現実でした。保護者と学校がうまくつながっていない状態で、学校がいくらサポーターを紹介しても、それを好意的に受け入れてもらうこと自体がとても困難でした。また、校種が小学校、中学校と進むにつれて、保護者が学校と日常的に関わる場が減ることで、気持ちの距離感もより広がってしまう、そこも背景にあると考えました。

この解決方法を考えていく中、福祉部局には心理職や保健師をはじめ就学前の子供を持

つ保護者とこれまで関わりのある人がたくさんいること、しかもその人たちは子供たちが乳幼児期から培った保護者との信頼関係があることを知りました。

今回のこの福祉部局との連携は、連携しなければいけないからするという目的ではなく、課題解決に欠かせない必然の手段として、福祉部局の担当者から直接オファーをもらう仕組みをつくれないうことを考えました。

この結果、これまで14件のオファーをもらいましたが、そのことをはじめ、福祉部局と連携したことによる変化を具体的に紹介していきたいと思います。

まず一つ目は、何よりも保護者へのつながりがスムーズになりました。保護者につながる流れとしては、福祉部局の担当者が事前に保護者に話を通してくれた上で、教育委員会に直接オファーをくれ、後日サポーターと三者で情報共有をして、初めての訪問日時を決める電話をその場で担当者からかけてもらいます。そこで驚いたことは、その電話でほとんどの保護者が出てくれたことです。これまで連絡自体がつながらない、つながっても、理解をしてもらうのに数か月、悪いときには年単位でかかるといったことも珍しくありませんでした。それと比べると、目の前の現実には驚き、これが長年培った信頼関係のなせる業なのかと強く感じました。

二つ目は、家庭教育支援の理解が福祉部局でも進んだことです。オファーをするという主体的な動きによって、福祉部局の担当者が家庭教育支援の効果も併せて実感してくれました。また、合同協議会を通して福祉部局の担当課の上席レベルにも理解され、担当者がより動きやすくなったとも聞きます。

三つ目は、日常業務においてたわいもない相談がしやすくなったことです。新たな取組を一緒にやりたいといった一昨年、前向きに受け入れてもらえたのも、これまでのつながりのおかげかなとも思っています。

その具体的なケース例を一部載せております。様々なケースに早期に関わることができました。

昨年度からは、福祉部局と合同で、非認知能力「未来に向かう力」の啓発にも取り組んでいるので、簡単に御紹介します。

各課が保護者と関わっている取組と連動する形で、無理なく取り組んでくれています。さらに今年度は、就学前施設がより主体的に保護者に働きかけるようになってくれました。教育委員会としては、保護者同士が交流する場、「おしゃべりサロン」の開催をメインに、家庭教育支援の新たなステージに取り組もうと思っています。

最後にまとめです。福祉部局との連携で、保護者を支援する選択肢が広がり、つなげる人ができるだけ早くつなげることの大切さ、信頼が生み出す力を再確認できました。孤立の中で過ごす人が増えている現代の社会において、この家庭教育支援は、教育部と福祉部が合同で行っていくべき一大プロジェクトであると強く思っています。縦の関係でも横の関係でもなく、斜めの関係で支援していく重要性が今求められていると思うので、今後も本市に合った形で一歩ずつ取り組んでいきたいと思っています。

本日はどうもありがとうございました。

【松田】 はい、どうもありがとうございました。とても保護者の方々がエンパワーメントされている様子が、これもやはり浮かんでくるような御報告をいただきました。ありがとうございます。

それでは、三つの報告をいただきまして、これからお話を進めていきたいのですけれども、その前に、今日は社会教育士の応援大使でいらっしゃる村井さんが来てくださっています。それで、自己紹介をまずはいただいてから進めたいと思います。村井さん、すみません、お願いいたします。

【村井】 社会教育士応援大使の村井美樹と申します。皆さん、こんにちは。

私は20年ほど前に大学で社会教育を学びましたが、今、それぞれの地域で活動されている家庭教育支援のリアルな現場はまだまだ知らないことも多いので、今回はパネルディスカッションを通じていろいろ学ばせていただけたらなと思っています。

私自身も今3歳になる娘がおりまして、日々子育てに奮闘しているところで、本当に家庭教育支援を受ける一般利用者の立場で質問させていただいたり、感想などを述べさせていただいたりしたいなと思っています。

今日はどうぞよろしくお願いいたします。

【松田】 はい、ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

それでは、早速チャットではいろんな御質問が出ていて、また返していただいているところですが、全てにここでお答えいただくと多分時間がなくなってしまいますので、後ほどチャットを通してぜひ一問一答という形では返していただくことにして、二、三、町や地域のお取組として、御質問に対して取り上げていただいて、これはちょっとお話ししたいというものを、一、二分程度で、各地域からコメントいただければありがたいと思うのですけれども、よろしいでしょうか。

では、御報告の順番でお願いしたいと思います。今別町からお願いいたします。

【今別町（大馬）】 それでは、何点か質問について回答させていただきます。

すみません、チャットのほうにも回答はさせていただいたのですが、結構「ほっとケーキサロン」や「子育て講座」についての御質問が多いのかなという印象でした。

基本的に「ほっとケーキサロン」につきましては、平日の開催です。大体月1回程度のペースでやらせていただいております。主催につきましては、町のこども園が主催にはなっていますが、共催で私たち公民館や教育委員会が入って、一緒に連携してやっているような状況になっております。

それと、一つ結構お厳しいというか、公民館の子育て世代の使用状況はどうですかという質問もあったのですが、なかなか私たちのほうも人口がすごく少なく、どっちかという高齢化が進んでいる町でありますので、子供世代の方たちが使っているかとなりますと、あんまりないような状況ですね。それこそサロンの参加者や、そういった集まりがあったときに多少使わせていただくというのが主になっています。

工藤のほうから、その「子育て講座」とかの細かいところをお願いします。

【今別町（工藤）】 はい、御質問ありがとうございます。

まずサロンで人気の講座は、親子で取り組む「親子でゆったりマッサージ」で、そのゆったりした感じがいいですね。あとは、親も自分の力を引き出すトレーニングやヨガがサロンでは人気です。向かいに役場があるのですが、そういうときでも、そこにいらっしゃるパパさんとかおじいちゃんとかも、お昼休みとかにちょっと顔を出してくださいませ。ですので、ママさんだけに偏っているのかなという御質問がありましたけれども、私達“チームTAZUNA”は、男女共同参画のネットワークとか、様々なできる範囲の分野で学びの場を増やしておりますので、そこのところはとても意識して事業を進めております。

「子育て講座」、小学校では親子でのコミュニケーションの取り方、子供の能力アップ、それからアロマでゆったりとか、カラーセラピストの方に来てもらったりとか、そんなふだんの子育てからちょっと離れて、素敵な時間を過ごしていただけるようなものは、子供さんが2人、3人いらっしゃる方からもリクエストがございます。

もう一つ、「公民館子ども教室」では、特に大学生さんや高校生さんやいろいろな多世代の方とも交流できるようなものを企画して、なかなか経験値も少ないもので、いろんな経験をさせたいなというところがあります。あと、地域の町探検とか地域ならではの体験をすると、みんなが声かけしてくれますし、地域愛を育てるような、そこら辺のところも大事に考えて行っております。

すみません、長くなりました。

【松田】 ありがとうございます。

そうしましたら、西会津町のほうからお願いしてよろしいでしょうか。

【西会津町（紫藤）】 事業主体ですが、教育委員会になっております。

スタッフは、町から委嘱されて働いております。

“オアシス”が開いているのは、月曜日から木曜日の朝9時半から夕方4時40分までです。

スキルアップについては、私たちがこの仕事に就いてからカウンセラー資格を取りまして、不登校に対する支援などをやっております。

対象世帯数は、児童の数で言いますと、小学校が200名、中学校が100名、そしてこども園が200名と、450名の子供たちを対象にしております。

企業訪問の実施についてですが、企業訪問は保護者が多く働いている地元企業のところに行って、いろんな活動をしてまいりました。

予約制についてですが、いつでも誰でも“オアシス”に来てくださいということをコンセプトにしています。予約なくいらっしゃる方もいますし、律儀にちゃんと予約をして、「いらっしゃいますか」という質問をいただいて、「じゃあ何時くらいにおいでください」ということもしております。

支援を届けたい人にどう届けるかということですが、やはりアウトリーチ型の企業訪問とかが一番手っ取り早いのかなと思っています。

取り出し事業などに対応しているかということですが、直接「こころのオアシス」ではお勉強の指導はしておりません。ですが、子供たちはタブレットなどを支給されていますので、そのタブレットを使って“オアシス”でお勉強するという光景はたまにあります。

以上です。

【松田】 はい、ありがとうございます。

そうしましたら、泉大津市からは、テーマを決めることがお一人お一人の生活課題に関して逆に狭めてしまうようなことがないかという御質問と、全てとなっているのですが、男性保護者への取組の事例はありますかという御質問もありがとうございますので、お願いしてよろしいでしょうか。

【泉大津市（長谷川）】 テーマですが、これは「おしゃべりサロン」のテーマということですかね。

訪問型の家庭教育支援においては、何かテーマを決めるといったものではなくて、課題

を抱えている保護者にピンポイントで、1対1で対応するといった形の訪問型の家庭教育支援を行っています。

「おしゃべりサロン」についてですが、「おしゃべりサロン」は、特に乳幼児家庭を対象に、自信を持つとか、約束を守るとか、そういった乳幼児期に育みたい力に絞ったエピソードとかを交えながら、保護者同士が「私にもそんなことあるわ」とか、「ああ、同じ悩みだったんだ」といったことを共有して、ほっこりしてもらって帰ってもらうといったもので、何か親についての知識を与えるといった学習形態というよりも、保護者が交流しながら共感していくことを目指した取組になります。

御質問いただいた中にも、必要な保護者ほど来ないというところがありますが、この「おしゃべりサロン」についても、例えばPTAや子育てに意識を高くお持ちの方が集まることが多いです。ですので、その場の話合いはとても盛り上がるのですが、実際に必要な保護者に届けられているかという、なかなか難しいと思います。

なので、そこと併用しながら、ピンポイントに課題を持つ家庭については、福祉部局の担当者から見て「この家庭は家庭教育支援があるといいのではないか」という見立ての中で、私たちにつないでくれています。そういう意味ではピンポイントの支援ができてるように思います。

まず私からは以上です。

【松田】 はい、ありがとうございます。

村井さん、ずっとお話を伺っていただいている、特にこの3地域の取組に関して何か思われたことはございますか。

【村井】 そうですね、まず今別町の「ほっとケーキサロン」については、私も娘を出産したときに公民館主催の新米ママの集いというのがありまして、そういう公民館主催のイベントに何度か足を運んだんですね。私もまだ出産した当時は全然ママ友もおらず、本当に孤独だったので、そういうところで、いろいろみんなで悩みを共有し合ったり、お勧めの図書館や子連れに優しいお店の情報を交換したりして、すごく支えられたところがあるので、こういう「ほっとケーキサロン」のような場所があるとすごくありがたいなとは思いました。

前も打合せさせていただいたときにいろいろ質問させていただいたのですが、「ビジョントレーニング」というのが面白いなと思いましたので、少し詳しく教えていただけたらなと思いました。

それから西会津町の「こころのオアシス」は、例えば私が小学校に通っていたときにこういう場所があったら、すごく心強い存在だったろうなと、うらやましいなと思ってしまうぐらい、すごくすばらしい試みと思いました。結構統計を見ていると、子供たちの利用がぐっと増えているんですね。平成30年度は、延べ人数だと16人から64人で、次が94人というふうが増えていて、本当に子供たちにとっても「こころのオアシス」という場所がとても大事な存在になっているとお見受けしました。

子供たちからどういった相談が多いのか、個別な感じではないですけど、少しその内容なども教えていただけたらなと思いました。

それから泉大津市は、これも本当に例えば保育園から小学校、中学校とどんどん環境が変わっていく中で、ずっと自分の悩みとか抱えている問題などを共有していただいて、その後もずっとサポートしていただけるというのは、本当にこちらの保護者としてみればありがたい存在だなと思います。そうやって福祉と連携して支えてくださるというのは。

ちょっと気になったのが、家庭教育支援チームのサポーターのメンバーの方々はどういった構成でいらっしゃるのかです。

それから福祉部局からサポーターへのつなぐときに、例えば相談で福祉部局に行ったらとっしやると思うんですね。そこからそちらに移行するときの境目というか、どちらも相談には乗っていらっしゃると思うので、その辺のそれぞれの領域というか境目を教えていただけたらと。どういうタイミングでこちらにつないでいかれるのかが少し気になりました。

以上です。

【松田】 ありがとうございます。

【村井】 まとめて話させていただいたんですけど。

【松田】 はい、ありがとうございます。本当に今お子さんをお育てになられているというリアルな保護者の立場と、社会教育を勉強されたんだと思う、本当に鋭い御視点で、非常に指摘していただいた部分は皆さんもぜひ聞きたいというところがあったと思います。あわせて、それぞれに他の地域の取組を聞かれて、ここまでのチャット等の御質問で足りなかったかなと思うようなことも含めて、またそれぞれの町市からコメントをいただけたらと思います。

先ほどの順番でよろしいですか。そういう多分構えでいらっしゃると思うので、急にここで泉大津市さんから言ったら、ちょっと泉大津市さんがびっくりされると思いますの

で。じゃあ今別町のほうからお願いしてよろしいですか。

【今別町（工藤）】 「ビジョントレーニング」ですが、五感を使って、例えばカードを使ったり体を動かしたりして、親も子も自分の力を引き出し、そして子供の能力をアップすることにつながると皆さんにお知らせするので、大変人気です。

【村井】 例えばどういうことを使って、五感を使ってやっていたらっしゃるのですか。

【今別町（工藤）】 カードをぱっと見て、そこに違い、変化を見つける瞬間視のトレーニングがあります。あとは面白いんですけども、台車に乗って、思いっきり進んでストップするとか、そういうので競争して。

【村井】 台車に乗って。

【今別町（工藤）】 台車に、はい。

【村井】 台車というのは、作業とかに使うような台車ということですか。

【今別町（工藤）】 そうです。そのちょっとコンパクトになっているのがあるんですけども、それに乗って、体育館をざーっと進んで。だからふだんあまり運動とかが得意じゃない子も、本当に夢中になって、短時間だけども、こんなに元気にやれるんだみたいなことを思ったりします。

【村井】 ありがとうございます。

【今別町（工藤）】 ありがとうございます。

【松田】 じゃあ西会津町さん、お願いします。

あ、今別町のほうからまだございましたね。すみません、はい、どうぞ。

【今別町（大馬）】 すみません、何点かチャットのほうの質問も来ていたので、1点、2点だけお答えさせていただこうかなと思いました。

「子育て講座」の中で、参観日に合わせて講座を行うと言わせていただいたのですが、広報はどのように行っていますかということです。基本的に保護者の方々の周知については、学校さんの参観日なので、学校のほうから参観日の授業の見学が終わった後、こういうのをやりますという形で周知を行っています。その活動内容とか写真については、町の広報紙でPRをさせていただいている状況です。

簡単ですけども、以上です。話の途中ですみません。

【松田】 ありがとうございます。

村井さん、「ビジョントレーニング」はいかがでしたか。

【村井】 私もあの後調べてみて、発達障害の訓練みたいなのところにも取り入れられて

いるんですね。ただ、台車に乗ってみたいなのはすごくオリジナリティーがあって、面白いなど。ぜひもう少し詳しく教えていただいて、ほかの学校でもできるような紹介をしていただきたらと思いました。

【松田】 ありがとうございます。

じゃあ、西会津町のほうからお願いしてよろしいですか。

【西会津町（紫藤）】 どのような理由で“オアシス”に来室するのかという御質問だったかと思いますが、いろいろあります。そうですね、一番多いところでは、教室にいたくないからとか、あとは先生に叱られちゃったとかという、そういう軽い相談から、あとは母親が日頃忙しくて、とにかく寂しいということで“オアシス”を訪れて、1回や2回ではなくて連続して訪れるという子供もいました。そのほかに、両親がけんかをして、家にいるのも嫌だなどということもあったし、いろいろありました。以上です。

【村井】 紫藤さんは学校教育相談員も兼任してやってらっしゃるんですね。

【西会津町（紫藤）】 はい。最初に学校の教育相談員をやっておりまして、“オアシス”を設立するときに、こちらもしてもらえますかみたいな感じで、このようになりました。

【村井】 そちらはもう“オアシス”の中で一緒にやってらっしゃる感じですか。

【西会津町（紫藤）】 ええ、基本的に曜日は決まっているんですね。月曜日と木曜日が教育相談員になっていますけども、いかんせん場所が同じなので、そのところはちょっとルーズにはなっていますけども、両方とも兼ねてやっております。

【村井】 スクールカウンセラーの方はまた別にいらっしゃるんですね。

【西会津町（紫藤）】 そうですね、スクールカウンセラーの先生はいらっしゃいます。その先生は週に1回もしくは月に3回のペースでいらっしゃっているので、その先生との連携も取っております。

【村井】 ありがとうございます。

【松田】 ありがとうございます。

じゃあ泉大津市さんからお願いします。

【泉大津市（長谷川）】 先ほど聞いていただいたことと、あとチャットに書いていただいたことも含めて幾つかお答えしていこうと思います。

まず、サポーターの構成です。やり始めてもう17年が経過するのですが、最初のきっかけは、学校に言葉の教室という相談員として入っていた、今リーダーをやっている人物に、「家庭教育支援という取組があるけれども、やってみないか」と当時の校長が声をかけた

ことで、1人から始めたと聞いています。そのたまたま声をかけた人物が泉大津市でカウンセリングの講座を持っていた人物で、今ではその講座を受講した人の中から地域貢献したい気持ちを持っている方に声をかけてもらって、その支援チームのメンバーを増やしているといった形です。なので、一番のきっかけは地域人材がたまたますぐマッチしたといったところからメンバーを増やしていています。

福祉部局につなぐときの境目と領域というところですが、どっちかからどっちかにパスしてという考えではなく、保護者にもそういう感じではなくて、もちろん私たちも相談をずっとこれからも継続するよと。ただ、「私たちは半年に1回とかの定期的なお話の機会しか持たれへんけど、こういうサポーターという人がおって、月に1回とか週に1回とか、聞いてほしいタイミングで聞いてくれる人おるけど、どうする？」という感じで福祉の担当者が声をかけてくれて、「それやったら聞いてみようかな」というような、多くの保護者とその反応でうちにつながってくれているといったところなので、お互いがどっちかに仕事を渡してしまうというよりも、相談のルートを増やすといった形でしています。福祉部局は、基本福祉的な制度で、制度を通した支援とかをやっているのですが、私達サポーターがやっているのは本当に話を聞く、ひたすら聞くというところをメインにやっているので、役割としては全然違うかなと思っています。

子供の事業を通して関係をつくっていくというアプローチはあるかという御質問ですが、まさに子供を通して保護者とお近づきになるということを私たちもやっています。それが小学校配置型という形で、サポーターが小学校に行きながら、子供たちの生の姿を見て、アプローチをかけようかなと思ったときには、子供と仲よくなっていると。家に行ったときに、「あ、いつものおばちゃんや」みたいな感じで、「え、あなた、この人知っているの？」というようになると、一気にハードルが下がって、何とか君、何とかさんは係活動を頑張っているんですよというふうなお土産を持っていくことによって、保護者がぐっとサポーターへの警戒心をなくしてくれるといった、そんな工夫をしながら保護者につながっています。

ですので、受ける側の安心感というところに、今お話しさせてもらったみたいに、保護者が楽しいなと思ってもらえる会話があります。例えば韓流スターが好きなんかなと、家の雰囲気で見たら、韓流スターの話振ってみたり、釣りが好きなんかなという感じだったら、釣りの話を振ってみたり。「教えて」「私、分からない」という感じで聞いていくスタンスを取ると、今までどっちかという支援を受ける側だった自分が人に教えてあげる

という立場に代わることが、すごく保護者にとって役に立っている気持ちになる。「じゃあ次も来てくれる？」みたいな感じで話が進んでいるように、サポーターからは聞いていません。

支援チームへの支援ですけれども、毎月サポーター会議というのを、私も含めて、ソーシャルワーカーも含めて開いてまして、今現在の支援の内容を検討したり、方向性を修正したりという機会を持っています。

【松田】 ありがとうございます。受ける側がほっとするというお話をしていただいている、すみません、ちょっと時間のほうがあるので、残りの部分は後ほどまた伺えたらと思います。

村井さん、今、泉大津あるいは西会津町のお話を伺っていて、御質問くださったことからお答えがきているのですけれども、村井さん御自身がお子さんをお育てになられていて、例えばちょっと不安になられるようなこととか、ふだん感じられていることはありますか。

【村井】 ふだん子育てしていて悩んでいたことですか。少し落ち着いてはきたのですが、娘のいやいや期が結構大変な時期がありまして、そのときは本当にいろいろ相談に乗ってもらいました。私の場合は友達とか保育園のママ友とかに聞いてもらっていましたね。

【松田】 そういう相談に乗ってもらえるというつながりみたいなものについて、今、泉大津や西会津町の方々から、結局はそれをどうサポートしていくかというところでつながっていたと思うのですが、一方でそういうことを本当は届けたい、届けてあげないといけない方なのに、それがなかなか届かないというお悩みもあって、それについてもいろいろ今お話いただいていたところですが、その辺り何かお感じになられることはありますか。

【村井】 そうですね。だから、まだ誰か相談できる相手がいるとか、どこの窓口で相談すればいいというのが分かれば、まだ行動に移せるけど、それすら分からなくて、本当に誰からも知られずに孤独に子育てをしている方もやっぱりいらっしゃるから、どうやってそういう方々を知ればいいのか。今、本当に近所の例えば周りのお節介なおばさんとか、そういう方がいらっしゃって、もっと温かい交流があればいいですけど、そういうのも全然なかったりするので、それすら気づけないところがあるので、本当にどうしていったらいいんでしょうね。皆さんも多分その辺りは苦労されていることだと思うんですけど。

【松田】 そうですね。そういう意味では今回この大会の大きなテーマが、地域の資源

をもっと生かして、いろんな主体が連携してやっていこうということで、それで今別町は公民館で、西会津町は学校、そして泉大津市は福祉ということでお話しくださったのですが、御質問の中や今の担当の皆さんのお声からも、異なる立場の方々が連携していくときの在り方がつなると可能性があって、今おっしゃってくださったようなところの支え方が広がるけど、一方で主体が違うものが連携するときの難しさみたいなものをおっしゃっています。

村井さんは、例えばテレビあるいは映画の作品を作られるときに、女優や監督や小道具といういろんな立場の方が連携して一つのものを作り上げていく世界で生きていらっしゃると思うのですが、そんなところから連携のコツみたいなことで何か思われることはございますか。ちょっとハードルを上げてしまいましたですかね。

【村井】 そうですね、連携のコツ……。でも、先ほど泉大津市のサポーターの立場で、保護者の方が支援を受けるのではなくて、教えられるように聞くというのは、人間関係や全てにおいて役に立つことだなと。聞く、聞き出すことはすごく大事で、私もそうやって例えば一つの番組を作り上げるときでも、相手の意見をちゃんと聞くことが意外となかなか難しかったりするけど、この人は何を求めて、何を考えているのかを聞く、傾聴というのでしょうか、そういうのを大事にしていらっしゃることは、すごく学ばせていただいたなと思いました。

【松田】 なるほど。確かに話し合うというのは、普通主張するほうが先に来るような気がするのですが、本当は聞くというゆとりとか余白とか共感とかが大事というのは、本当に改めて今思いますね。

【村井】 だからお芝居に関しても、アクションではなくてリアクションのほうが大事というのもあるんですね。本当にそうで、自分からこうと言うより、相手のことを聞いて、こっちが受け止めて、何か行動を起こすほうが実は大事と言われます。今思い出しました。

【松田】 ああ、なるほど。とても面白いお話をありがとうございます。

【村井】 はい。

【松田】 時間があっという間に過ぎてきているのですけれども、今までのお話を聞いていただきながら、3者の皆様方、最後に一言ずつまたお話しただければと思います。どのような形でのお話でも結構ですので、ちょっとここは話し残したかなということがありましたら、ぜひいただければと思います。

じゃあ今別町からお願いしてよろしいですか。

【今別町（大馬）】 今回の事例発表は、私たちも大変勉強になることもたくさんありましたので、本当に今後の事業の役に立てていきたいなと思っております。

先ほど、最後に連携方法についていろいろお話しさせていただいたと思うのですが、私たちは町の福祉部局との連携という事例を挙げさせていただきました。私たちのこども園につきましても、基本的には福祉部局とつながってやっている状況で、こども園から小学校、小学校から中学校という一連の流れができていますので、福祉部局との連携がうまくできたと思っています。なかなか敷居が高いと思うこともあるかと思うのですが、あちらのほうでも待っていることもあるので、私としては、そこに1回行って見て、何か一緒にやりませんかの一つ声かけすることが今後重要なのかなと思っております。

私からは、簡単ですけども以上です。

【松田】 ありがとうございます。

じゃあ西会津町からお願いしてよろしいですか。

【西会津町（紫藤）】 相談内容などを聞く中で私たちがいつも思っているのは、子供や困っている保護者には、行政の垣根はないということです。なのでただ単に、困っていることを解消してあげるような手助けを私たちはしなくてはいけないし、教育と福祉の連携がもっと強くなってほしいと思います。以上です。

【松田】 ありがとうございます。

じゃあ最後に泉大津市から、先ほど御発言を途中で止めてしまいましたので、その残りも含めまして、すみません、よろしくお願いいたします。

【泉大津市（長谷川）】 チャットにも書かせてもらったのですが、学校と福祉部局にも趣旨や狙いとかを丁寧に説明させてもらいながら、ちょっとでもオファーをしてもらえるように取り組んでいます。

ただ、やはり家庭教育支援の、どんな保護者にこのニーズが合うのかを伝えきれているかという、まだまだ理解を求めないといけない、私をもっと説明をしていかないといけないところがあると思います。これから連携をしていく中で、それぞれ感じるちょっとずつの摩擦や方向性の違いを、それはあって当然だと思うので、そこをちょっとでも修正していきながら、気長に連携の道を歩んでいけたらなと思っています。

【松田】 ありがとうございます。

そうしましたら、最後に村井さんから一言いただきたいのですが、本当に今ま

でいろんなことをお話しいただいているところですけども、コメントをいただけたらと思います。よろしくお願いします。

【村井】 私が小さい頃というのは、そういう地域コミュニティがまだあったなと思うんですよね。今そういう関係が希薄になっているけれど、でも、こうやって例えば小学校に「こころのオアシス」があって、「ほっとケーキサロン」ですとか、それから福祉部局との連携みたいなものがある。それって、今、私がリアルに子育てしている世代としては、すごく本当にそれぞれありがたい存在というか、困ったときに頼れる場所があるというのはすごくうれしいことだなと思いますね。

本当にそれが必要な方に届くかというところは、これから私たちももっとどんどんお節介になっていく必要があるというか。保育園に来ているママも、「あれ？ 何かいつもと様子が違うんじゃない？」とって話を聞いて、「こういうところがあるよ」って紹介してみるとか、「公民館でこういうイベントをやっているよ」とか、もっと自分たちもアンテナを張って、周りに知ってもらうことをするのがいいのかなと思いました。ありがとうございました。

【松田】 ありがとうございました。

そうしましたら、予定しておりました時間が参りました。今、最後に村井さんがまとめてくださいましたけれども、やはり皆さんで進めようとしている方向性、ビジョン、つまり家庭教育支援ということですね。それと、そのために何ができるのか、何をしなければいけないのかという課題が大変今日のお話合いの中で出てきたなと思って伺っておりました。それとともに、やはりこれまでの成果もあるとすごく感じる場所がありました。

これを受けて、今日はこの後さらにグループでディスカッションしていくということになりますので、ぜひ今日のメンバーは、そのグループディスカッションの中にも入る方も多いですので、ぜひ御参会の皆様方とこの後お話を進めていくことができればと思います。

そうしましたら、この時間はこれでひとまず終わらせていただきたいと思います。

本当に村井大使、ありがとうございました。

【村井】 ありがとうございました。

【松田】 また、パネリストの三つの地方公共団体の皆様、大変有意義な協議をありがとうございました。

また、協議をお聞きになった参加者の皆様におかれましても、チャット等も含めまして、御参加いただきまして大変ありがとうございました。この後のワークショップにぜひこの

時間を生かしていただいたり、あるいは今後の地域での活動の御参考にしていただければ
と思います。

本当にありがとうございます。これでパネルディスカッションをひとまず終わらせてい
ただきたいと思います。どうもありがとうございました。

— 了 —